

大崎市は、面積の五十四パーセントを森林が占め、国の天然記念物のマガンやヒシケイが生息するラムサール条約湿地、コイ科の希少種シナイモツゴが生息する沼、栗駒国定公園内に位置する鳴子温泉郷など、豊かな自然に恵まれています。

この豊かな自然を次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた責務です。そのためには、石油等の化石燃料に依存したこれまでの大量生産、大量消費・大量廃棄の社会のあり方を見直し、環境への負荷の低減を図つていくことが求められています。

大崎市の総合計画に掲げる「自然と共生し環境に配慮したまちづくり」の実現に向けた「大崎市バイオマスタウン構想」と「大崎市公共施設地球温暖化対策率先実行計画」の二つの取り組みを紹介します。

# 特集 地球環境を考える

再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたものをバイオマスと呼んでいます。例えば、家庭や食品工場から排出される食品加工残さや廃食用油、家畜排せつ物、製材加工残材、下水汚泥など、もみ殻、間伐材、林地残材などの未利用のもの、そして、食料と競合しない穀物などの資源作物が挙げられます。

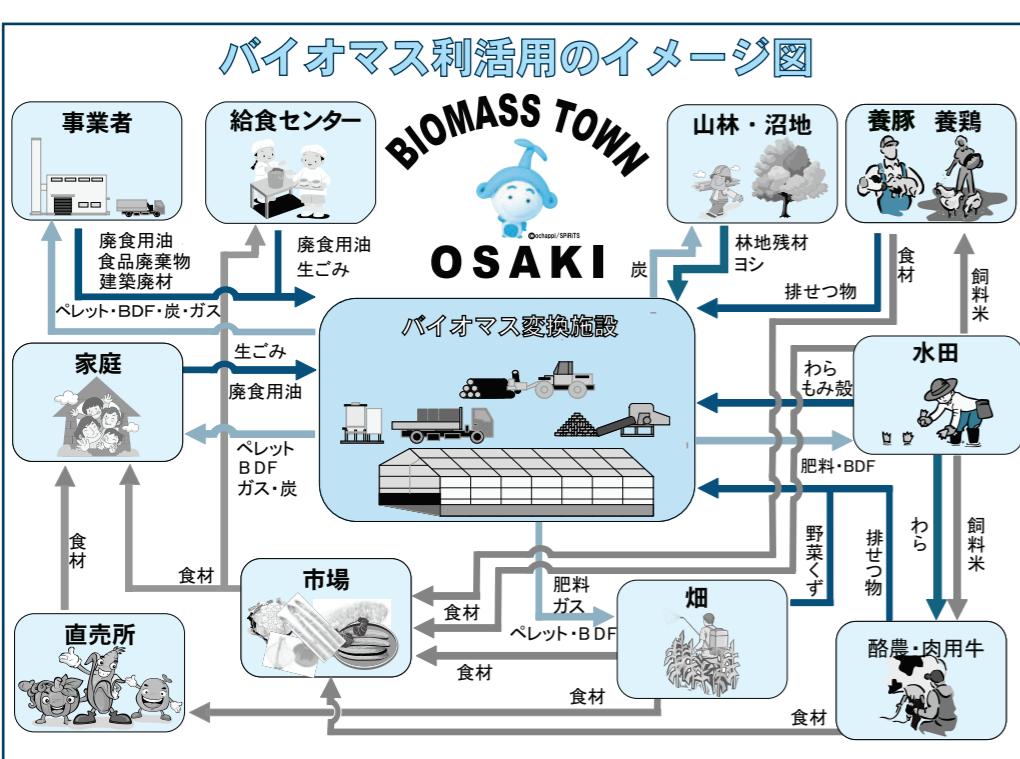
これらのバイオマスを利用することにより、限りある資源を活用した循環型社会が築かれます。

バイオマスタウンでは、地域に広く存在するバイオマスと資源作物を有効利用し、ごみの減量化を実現します。

バイオマスの利用により、安全・安心な農産物としてイメージの向上や耕作放棄地の解消、新産業の創出が可能になります。

また、都市と農村の交流を促進させるグリーンツーリズムやエコツーリズム等の課題はありますが、林地残材等をバイオマスとして利用することで、森林資源に新たな利用価値が生まれ、活性化につながります。

また、地域やNPO、各種団体と共同で利活用を検討することで、地球温暖化やエネルギーに関する問題意識、認識が高まり、地域コミュニティの醸成による地域活性化が期待されます。



●資源作物の利用  
三本木地域では六ヘクタールの丘陵地に観光用にヒマワリ・菜の花を栽培しています。ヒマワリの種は、食用油や菓子に利用されています。遊休・未利用農地の有効利用策として、ヒマワリやナタネ等の資源作物を栽培し、油脂利用や飼料化などの利活用を検討します。

●家畜排せつ物の利用  
本市では環境保全型農業を推進しており、堆肥を農地に還元するなど、家畜排せつ物の利用率は高くなっています。さらに農地土壤の状況を把握し、適切に堆肥を投入するように促します。

●生ごみ、食品加工残さ、廃食用油の利用  
バイオマスとして利用するため、生ごみの排出時の留意点を周知し、堆肥などの資源として有効利用することや、業実施体制の検討等を行っています。

●ヨシの利用  
田尻地域の蕪栗沼は、ラムサール条約湿地に登録された湿地に広がるヨシを焼却して、貴重な自然環境が保たれています。現在は、湿地の乾燥化や堆積による陸地化を防ぐため、市民参加型の循環型社会を目指すためのソフト事業を主としたバイオマスタウンを目指します。

## Part 1

### 大崎市バイオマスタウン構想を策定へ

動植物から生まれた再生可能な有機性資源を有効活用した資源循環型社会を構築することで、自然と共生し持続可能なまちづくりを目指す「大崎市バイオマスタウン構想」が、農林水産省をはじめとするバイオマス・ニッポン総合戦略会議で承認され、三月三十日に公表されました。大崎市が目指すバイオマスタウンとはどういったものなのか、構想の概要をお知らせします。

#### 問 農林振興課自然共生推進係

☎ 023-709-0

バイオディーゼル燃料(BDF)等を検討し、物質やエネルギーの製造と資源循環を図ります。未利用資源が豊富ですが、間伐材は現場集積、剪定枝は焼却処分されており、有効利用が十分ではありません。間伐材や建築廃材等については、設備投資を最小限に抑えたチップやペレット化を図り、公共施設や園芸施設のボイラ、ストーブの燃料としての利用、家庭でのペレットストーブの普及も検討します。

#### ●林産資源の利用

山間地域には、間伐材等の未利用資源が豊富ですが、間伐材は現場集積、剪定枝は焼却処分されており、有効利用が十分ではありません。間伐材や建築廃材等については、設備投資を最小限に抑えたチップやペレット化を図り、公共施設や園芸施設のボイラ、ストーブの燃料としての利用、家庭でのペレットストーブの普及も検討します。